



ています。先輩たちが披露しているのを見てあこがれて、書道を習っている同級生と一緒に「書道パフォーマンスをしたい」と学校に申し出たところ、本番では今年の体育大会のスローガンである

大始良中学校
ふくどめ あいり
福留 愛里 さん(3年生)

実験が楽しいので、好きな教科は理科。ソフトテニス部に所属し、キャプテンを務めた。今は受験も終わって一安心。将来の夢は看護師になること。



書道はお手本をよく見て分析し、気持ちを落ち着かせながら書くことが大事。中学校を卒業しても書道は続けていきたいので、いつか私らしい書が書けるように頑張りたいと思います。

「煌華」の書を披露することができました。



小学1年生の時に硬筆を始めました。2年生で筆を使った書道を習い始め、硬筆と毛筆を並行しながら週2回程度書道教室に通っています。
教室では毎月の課題を提出して腕前が認められれば昇段していくのですが、今は硬筆で一番上の段である特待生、書道では6段の段位を持っています。
大始良中学校は毎年9月の体育大会で書道パフォーマンスをし

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ！



タイム トラベル ～温故知新～

35話

まいいぶつ
野里町岡泉の磨崖仏



磨崖仏とは、切り立った崖の斜面や大きな石に仏像を彫刻したもので、日本では奈良、平安時代に作られたものが多く発見されています。
野里町の岡泉にある磨崖仏は、野里町と高須町の境界付近、大隅線跡のフィットネスパークを高須町側に歩くと見える小さな「磨崖仏」と書かれた看板を目印に、ロープをつたって崖を降ったところにあります。また、中央の仏像の大きさは1m程度で細かく造形され、表情は柔らかく大隅地方でも例を見ないほど優美で珍しいとされています。彫られているのは阿弥陀三尊



▲崖を降りた川べりから、左の岩場を越えたところにある磨崖仏。ひっそりとした風情に包まれています。



▲足場がとても悪いため、崖を降りる際には細心の注意が必要。雨天時など地面が柔らかい時に訪れるのは避けましょう。

尊。阿弥陀三尊とは、阿弥陀如来を中央に配置し、その左右に勢至菩薩と観音菩薩を置く形式で、中央の阿弥陀如来は両手で輪をつくる阿弥陀定印を結んでいます。また、向かって左の仏像は合掌していることから勢至菩薩、右の仏像が観音菩薩と思われる。作られた年代ははっきりとは分からず、仏像の形式から平安時代から室町時代の作だと考えられます。
昔は「滝の観音」という名の駅もあり、お参りする人も多かったといえます。在りし日の人の往来と信仰を感じ取れるスポットだと言えるでしょう。